

会 議 録

<開催日>平成 21 年 2 月 16 日(月)

<時 間> 9 : 30 ~ 12 : 20

<場 所>岸和田市立福祉センター 3 階教室

<名 称>平成 20 年度 第 4 回岸和田市協働のまちづくり推進委員会

<出席者> ○は出席、■は欠席

松端	望月	室田	米川	深野	中野	稲富	中川	和田	上野	泉原	西川	谷川	荻野	白木	大多
○	■	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	■	○	○	○

事務局) 西川企画課長、梶野主幹、松阪、陣川

<議 題>

- 1、今年度の取組み(事業報告)について
 - 事業報告
 - 意見交換
- 2、来年度の取組み(事業計画)について
 - 事業計画
 - 意見交換
- 3、岸和田市ボランティアセンター(VC)の見学・意見交換について
 - 施設見学
 - 意見交換
- 4、その他
 - 委員の情報交換・意見交換
 - 次回以降の日程確認

<概 要>

1、今年度の取組み(事業報告)について

- 公民協働推進システムの進捗状況及び主な取組み状況(平成 20 年度)について説明
- 岸和田市協働のまちづくり市民活動支援制度(支援制度)について説明
- ・ 以前よりワーキング会議において議論していただいた支援制度については、残念ながら来年度、事業化には至らなかった。
- ・ 補助金のスクラップ(廃止)&ビルド(構築)の中で、引き続き庁内での周知、合意形成を含めて再検討し、熟度を高めていきたい。

【意見交換(要点筆記)】

- 会 長：支援制度についてはワーキング会議でも熱心に議論いただいた。支援制度については非常にわかりづらい制度であり、直接的效果と併せて波及的效果も明確にすることが必要である。
- 委 員：既存の補助金を如何にスクラップするのか、スピードアップが必要である。
- 会 長：スクラップを実行するには決断力が必要である。
- 委 員：協働の仕掛け作りには財政部局と人事部局を如何に巻き込むかである。例えば協働推進チームに巻き込むことは出来ないのか。まず庁内での協働(体制づくり、合意づくり)が必要である。
- 事 務 局：企画課のスタンスとしては理解してもらうまで粘り強く説明する必要があると考えている。実態としてスクラップの効果を目に見える形で示し、次年度に何とか制度化を図っていきたい。
- 会 長：引き続き、検討していただき、制度化を図っていただきたい。

2、来年度の取組み（事業計画）について

- 平成 21 年度 協働推進スタッフの取組みについて説明
- ・ 長年の懸案事項である市民活動サポートセンターについて検討したいと考えている。
- ・ 他市の事例を見ながら、機能、運営方法、スタッフ等こういったものが必要かをとりまとめた基本構想の策定を計画している。
- ・ 支援制度については、創設に向け引き続き検討していく。
- ・ NPO法人認証事務について、平成 22 年度中に岸和田市に権限移譲に向けて調整していく。

【意見交換（要点筆記）】

会 長：市民活動サポートセンターの基本構想とはこういったものをイメージしているのか。

事 務 局：庁内において施設の見直し等を検討していく中で、適切な場所があれば直ぐに動けるように、基本構想（基本的な考え方）を持っていたいという主旨である。

自治体によってはV Cとの合体、V Cとサポートセンターが別にある等自治体によって異なっている。また行政との関わり方についても、自治体により異なっている。そういった面も含めて他市の状況の視察も検討している。詳細については別途ワーキング会議を設置し、内容を深めていきたい。

会 長：〇〇委員は池田市で活動されていたが、池田市の状況は如何。

委 員：池田市の場合、サポートセンターの中で人材のマッチング、助成金情報等、市民活動を支援してきた。市民活動を始めた時点ではそういった情報を探すことも困難である。今、企画課が行っている事業の中でも、サポートセンターが担うべき事項も数多くある。“HOW to ”、人のつながりも含めた支援が必要である。

会 長：NPOが運営、半民半官の運営等、運営方法にもいろいろな形がある。

委 員：サポートセンターの理念、ミッションを共有できるNPOと行政による運営が非常に良いのではないか。

委 員：様々なNPOを支援する立場にあるサポートセンターには、公平性がやはり重要と思われる。

委 員：V Cに登録しているグループでも福祉に限っていない。最近では環境に取り組むボランティア団体も5団体登録している。また災害ボランティア研究部も立ち上がって活動を始めている。その中には、市の職員も関わっており、非常に助かっている。

委 員：核になる団体はどこなのか。NPOになるのか行政になるのか。

会 長：全国的にも非常に様々な運営形態がある。どちらにしても総合的に支援することが重要である。支援制度については制度化に向けて、引き続き努力していきたい。

3、ボランティアセンターの見学・意見交換について

- 2 班に分かれて施設見学（V C、自助具工房）
- 意見交換（社会福祉協議会：杉阪事務局長、川畑職員）
- ・ 平成 2 年 10 月にV Cを開設した（平成元、2 年にボラントピア事業を実施）。現在職員 2 名、ボランティアアドバイザー 1 名で運営している。
- ・ V Cの適正な運営を図るためボランティア運営委員会を開催している。学識経験者 1 名、ボランティア 7 名、関係機関 7 名で、年 3 回開催している。事業計画、講座の検討を行っている。
- ・ 現在、ボランティア登録団体は 31 団体。個人登録者の需給調整も行っている。
- ・ ボランティアだよりを年 4 回発行している。全ての作業（記事集め、編集、印刷、配布等）をボランティアが行っている。

【意見交換（要点筆記）】

委 員：V C自体の存在を知らない人が多い。

会 長：V Cの課題はこういったものがあるのか。

- 社 協：同一の部屋に作業場（印刷機、コピー機等）と相談スペース、事務所があるため、相談しにくい状況であり、手狭になっている。またインターネット環境を整備して欲しいといった要望もある。現在は職員２人、アドバイザー１人の体制である。１７時以降は相談機能は行っていない。貸室のみである。今後、サポートセンターの建設にあたっては、調整が必要である。
- 委 員：ＶＣは既に成り立っており、人どうしの関係が出来ている。サポートセンターは公益活動を支援する立場である。ＮＰＯは収益がないと活動が出来ない。ボランティアとＮＰＯを混在しなくても大丈夫ではないか。ボランティアと市民活動は区別しておくべきでは無いか。両者の棲み分けは必要である。
- 委 員：両者は別であっても、同じ場所に設置して欲しい。大きな枠の中でそれぞれの役割を担うのは可能ではないか。
- 社 協：情報共有の観点からも同じ場所にある方が良い。
- 会 長：今後、機能と人材については検討が必要である。両者の棲み分け、役割分担も含めて検討が必要である。また安易に運営を市民任せにするのは良くない。失敗している自治体もある。今後議論を深めていきたい。
- 事 務 局：議論を深める意味で、他市のサポートセンターの視察を考えている。５月中の予定である。日程が決まり次第、連絡する。
- 会 長：他市の状況を見ながら、岸和田市にこういった機能が必要か、運営体制等についても検討していく。

4、その他

○ 情報交換

- ・ 稲富委員：２月２１日（土）ボランティアサロン
：３月１４日（土）地球の未来を信じて活動するすばらしさ
- ・ 泉原委員：３月３日（火）～コミュニティＦＭ岸和田放送開始
：２月７日（土）覚せい剤摘発のニュースを受けて、市民が発見したとのこと。
岸和田市でも、まちの安全を市民で守れば・・・。
市民の想いを形にする場があれば良い。

○ 次回以降の日程（以下のとおり）

６月 ８日（月）９：３０～１２：３０
８月１０日（月）９：３０～１２：３０
１１月 ９日（月）９：３０～１２：３０
２月 ８日（月）９：３０～１２：３０

場所は未定

他市の市民活動サポートセンター視察は５月を予定（決まり次第、連絡）